

# 伊達な旅ガイド

Vol.206

笑顔咲くたび 伊達な旅  
仙台 Sendai & Miyagi, where smiles blossom 宮城

伊達な旅紀行

いいトコ!  
**みやぎ**

毎週月曜日  
19:54~20:00  
BS-TBSにて大好評放送中



仙台・宮城  
観光PRキャラクター  
むすび丸



JR・空路アクセス  
新幹線  
空路



JR東北本線国府多賀城駅またはJR仙石線多賀城駅下車

8月24日  
放送

## 足跡を辿るシリーズ(松尾芭蕉編)



多賀城は奈良時代から平安時代にかけて約200年もの間、東北の政治・文化の中心地として栄えた歴史ある場所。松尾芭蕉は千住を旅立ってからおよそ1か月半後にこの地を訪れ、「歌枕」という和歌に詠まれた名所旧跡を回りました。たくさんの歌枕が残される歴史のまち・多賀城で、芭蕉が見つめた景色に思いをはせてみませんか。

今回の案内人

観光ボランティアガイド  
曾根田 時朗さん

2年前から芭蕉のコスチュームでガイドを行っています。



### 多賀城市に残る歌枕

国指定重要文化財 多賀城碑(壺碑)



中曽根さん

芭蕉が多賀城に到達して最初に見たのが「多賀城碑(壺碑)」です。芭蕉は千年も昔の碑がきちんと残っていたということに感激し、不易流行という理念を確立していくきっかけになったといわれています

#### ZOOM UP

不易流行

俳諧理論の一つ。変わらないものを意味する「不易」と、時代が進むに連れて変化していく「流行」。一見矛盾するように思えるが底に流れるものは一つとする芭蕉の考えです。

浮嶋神社



中曽根さん

小高い丘の上にある浮嶋神社は、周りが湿地帯(谷地)で、雨が降った月夜には、月の光で光り、まるで海の上に浮かぶ島のように見えたということから、浮嶋という名がついたといわれています。

末の松山



中曽根さん

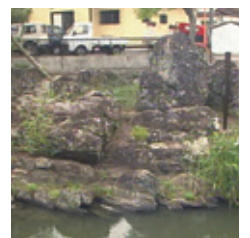
むつまじい男女の仲であってもしまいはみんな墓石になってしまうことに無常を感じるということを、芭蕉は「おくのほそ道」に記しています。



契りきな  
末の松山  
波越さじどは

清原元輔

興井(沖の石・沖の井)  
末の松山から南へ延びる道を下ると見えてくる、奇石が連なる池。



#### ZOOM UP

興井・壺碑・末の松山は、「おくのほそ道の風景地」として国から指定されました。

そのほかの歌枕



おもわくの橋



野田の玉川